

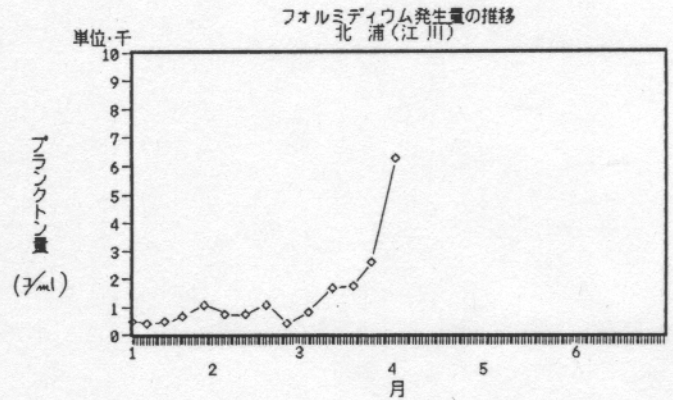
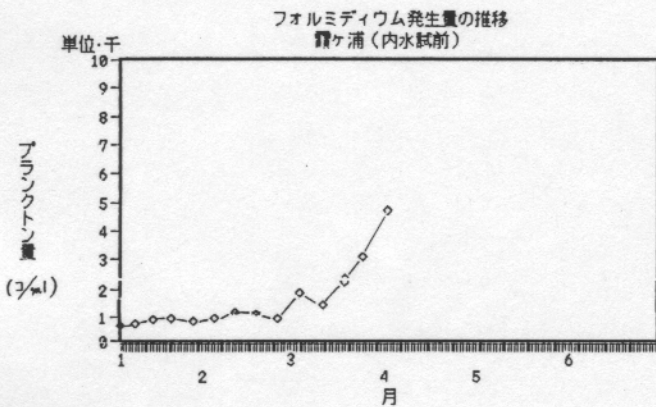
プランクトン情報

桜前線と共に、本年も霞ヶ浦北浦においてはフオルミディウムの季節がやって来ました。昭和63年に湖内で初めて大量発生したフオルミディウムは、それ以降4～5月と9～10月の年2回増殖期になることがほぼ定着化してきました。今年も、透明度が一時上昇し、水温が10℃を超えた3月下旬から増加し始め、4月に入って急増の兆しが現れてきました。4月4日現在のプランクトン発生状況を下の表に示します。湖奥部では今の所、珪藻類のキクロテラ、及び原生動物が優占していますが、湖心部（五町田）でフオルミディウムが勢力を強めてきています。北浦江川においても例年通りフオルミディウム増殖の兆しが見られ、今後1ヶ月間は注意が必要となるでしょう。

霞ヶ浦北浦における現在の主要プランクトン(コ/ml)

(平成8年4月4日現在)

プランクトン 地 点	藍 藻 類		珪 藻 類		原生動物	水温 (℃)	酸素量 (ppm)	透明度 (cm)
	フオルミディウム	オシロリア	シネドラ	キクロテラ				
下玉里	4810	5893	2167	432640	9620	12.6	11.6	40
内水試前	4740	5540	10670	64300	14140	10.9	11.2	66
牛 渡	3553	2383	3813	1127	23357	11.7	8.0	62
五 町 田	11440	780	42120	33280	9187	11.5	11.1	55
江 川	6270	670	28810	4400	6470	11.1	11.6	78



中国産ワカサギ卵、初の試験的導入

3月29日(夕)出島村田伏に中国から2億粒のワカサギ卵が到着、直ちにヨウソ消毒を行い、翌日霞ヶ浦各漁協に配布が行われました。できるだけ多くのワカサギが育って欲しいと思います。霞ヶ浦にとって大切なワカサギ資源を守るためには、こうした地道な努力はとても大事なことだと思います。今回、中国からの卵移入は初めての試みということもあって、内水試の池でも一部の卵の提供を受け、孵化仔魚を飼育しており、今後より効果的な孵化放流を行うための研究に着手しています。現在はまだ卵管理を行っている段階ですが卵質は想像していたより幾分悪い状況にあり、中国での採卵、人工受精、卵管理方法について今後、改善の余地があるように思われます。

